

「専修学校フォーラム2009」 参加者アンケート結果

(平成21年2月24日、25日)

- 参加者数: 236名
- 回答者数: 35名
- 回答率: 14.8%

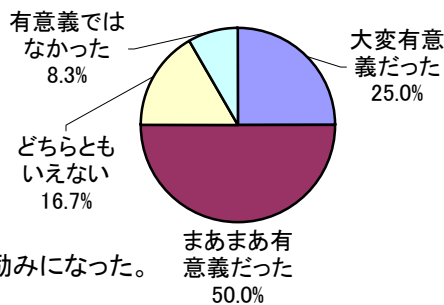
全国専門学校情報教育協会

問1. 全体会について

1. 講演「繁盛させなければお客様の声を聞け！」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	6	25.0%
まあまあ有意義だった	12	50.0%
どちらともいえない	4	16.7%
有意義ではなかった	2	8.3%
計	24	100.0%

1. 講演「繁盛させなければお客様の声を聞け！」



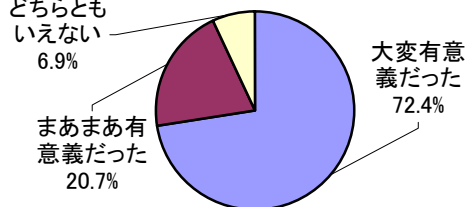
評価の理由:

- ・貴重な話を伺うことができた。共感できる部分が多く、励みになった。
- ・創業者としての思いが良くわかった。
- ・経営者としての姿勢や取り組み。
- ・企業家として社員のメンタルな関係に「お客・・・」がどのように影響したのか分析が知りたい。最も分析は意味がないのかも知れない。
- ・創業者の独創性のある話を期待したが、時間の制約もあり少し期待はずれの感がある。
- ・パーソナルヒストリーが興味深かった。
- ・地域との信頼性の確立。
- ・お客様との関係についての考え方は参考になったが、専門学校フォーラムの基調講演としてはどうだろうか？
- ・現場主義、顧客主義のお言葉で、今自分がすべきこと「学生の声を聞き、学生のニーズに答えていくということ」を改めて感じさせられた。
- ・90分間講演で具体的な話を聞きたいと思う。
- ・もう少し深い話を聞きたかった。
- ・単なる形式ではなく、真の気持ちで何事も取り組まないと、答え、結果は生まれない。
- ・分野は違ったが、物事に対する姿勢は教育的だと思う。
- ・経営者として耳の痛い話が多かった。ぜひ学校に持ち帰って活かしたい。
- ・成功された経営者の考え方、信念に触れることができた。
- ・現場主義の再認識ができた。
- ・業種は違えど、根本的な柳根蹴ればいけないことは同じだと感じた。
- ・顧客を学生と置き換え、今後活かしていきたい。

4. 調査委員会報告

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	21	72.4%
まあまあ有意義だった	6	20.7%
どちらともいえない	2	6.9%
計	29	100.0%

4. 調査委員会報告

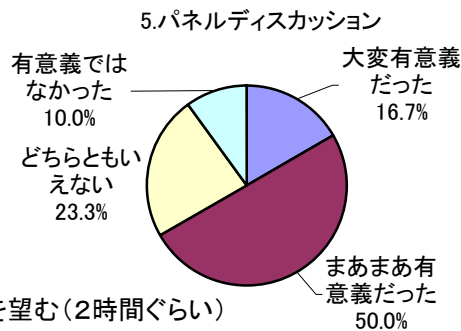


評価の理由:

- ・資料が豊富で現状の認識を的確に指摘されていて、とてもわかり易く、且つ、危機感を持つことができた。
- ・専門学校における具体的な問題点(ランドデザイン、公共性、教員問題)
- ・大学の実態、方向性、専門学校の課題の一端を垣間見た。
- ・現状が浮きぼりになり今後の対策に役立つ。
- ・「特色≠ローカル」「大学はダンピングを始めている」など考えさせられる内容で、勉強になった。
- ・調査データが豊富で、今後の学校経営、運営面で役に立つ。
- ・大学と専門学校の全体像が良くわかった。帰校して再度資料を検討したい。
- ・広角的にわかりやすく分析された、専門学校を取り巻く環境が理解できた。
- ・現状が良く理解できた。
- ・厳しい発言に気付かされる点が多々ある。当校(当科)も資格主義であり、職業教育ができていない。考えさせられた。先生の話に説得力が有り参考になった。
- ・詳しく役に立ちそうな資料も頂けた。
- ・短大(女子)が減ったのは、大学(四大)に移ったことによる減少であって、専門学校が伸びた結果ではない。
- ・鋭い視点が多数あった。
- ・要点をかいつまんで説明頂き、大変わかりやすかった。大学と専門学校のこれからのあり方を学べた。
- ・専門学校の現状についての的確に分析している。
- ・専門学校の抱える本質的な問題を明確にすることができた。日頃より何となくおかしいのではないかと考えていたことをきちんと整理することができた。特にコマについての考え方が参考になった。
- ・データが豊富、専門学校をいろいろな角度から見ている。
- ・資料を参考にさせて頂く。学内の研修や職員の立場について、本気に取り組む必要を感じた。
- ・自校の問題点がチラッと浮かんだ。そのきっかけになった。
- ・初めての参加だったが、芦田氏の声(専門学校についての)強い議論がとても参考になる。

5. パネルディスカッション

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	16.7%
まあまあ有意義だった	15	50.0%
どちらともいえない	7	23.3%
有意義ではなかった	3	10.0%
計	30	100.0%



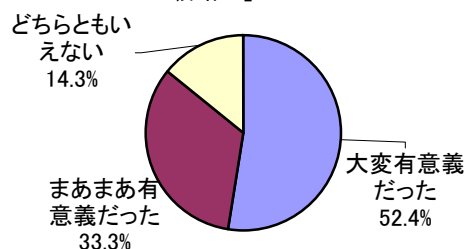
評価の理由:

- ・興味深く拝聴したが、もう少し深く話を伺いたかった。
- ・議論が途中で終わってしまった。テーマの絞り込み、時間増を望む(2時間ぐらい)
- ・教員の評価(人物像)の多様性(難しさ)の指摘。
- ・調査委委員会の報告を受けての議論ということだったが、脈略がなくかみ合っていない様だった。
- ・もっと活発な議論が聞きたかった。
- ・結論の「それを誰がやるのか」、その通りである。
- ・各学校の抱える教育問題について。
- ・教員の質に関する問題はどれも同じだと思う。結論が出る問題ではないが、少しまとまりがなかった様に感じられた。
- ・芦田見解にひれ伏すパネラーばかりで、人選の基準が不明確。
- ・調査委委員会の報告の延長で、興味深く聞けた。
- ・論点がぼやけてしまった。
- ・話がまとまらず残念である。
- ・同じ悩みを共有している。
- ・一条校化の為の困難な点、理解しているつもりであってもなかなか難しい課題である。大学の専門学校化などからこらからの特色の出し方を考えてはみるが、小規模校のハードが足りない点など、追いつけない課題が多いように思われる。
- ・もう少し討論して頂きたかった。
- ・やや内容に偏りがあったように思うが、概念としての学校、学科の目標の一致とその具体化する際の不一致の話がおもしろかった。できればなんらかの「答え」がほしかった。
- ・切り口とテーマを絞る必要があった。
- ・調査委員会の報告を受けての内容であったが、時間不足であった。学校の在り方について、もう一度しっかり考えるべきと感じた。
- ・いろいろな学校があり、いろいろな問題がおすることはわかった。ヒントも見えた。
- ・経営と運営の二種類分けての議論がわかりやすい。
- ・やはり芦田先生は良い。

20. 講演「インターネットの現状 ～今後の方向性とその戦略～」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	11	52.4%
まあまあ有意義だった	7	33.3%
どちらともいえない	3	14.3%
計	21	100.0%

20. 講演「インターネットの現状 ～今後の方向性とその戦略～」



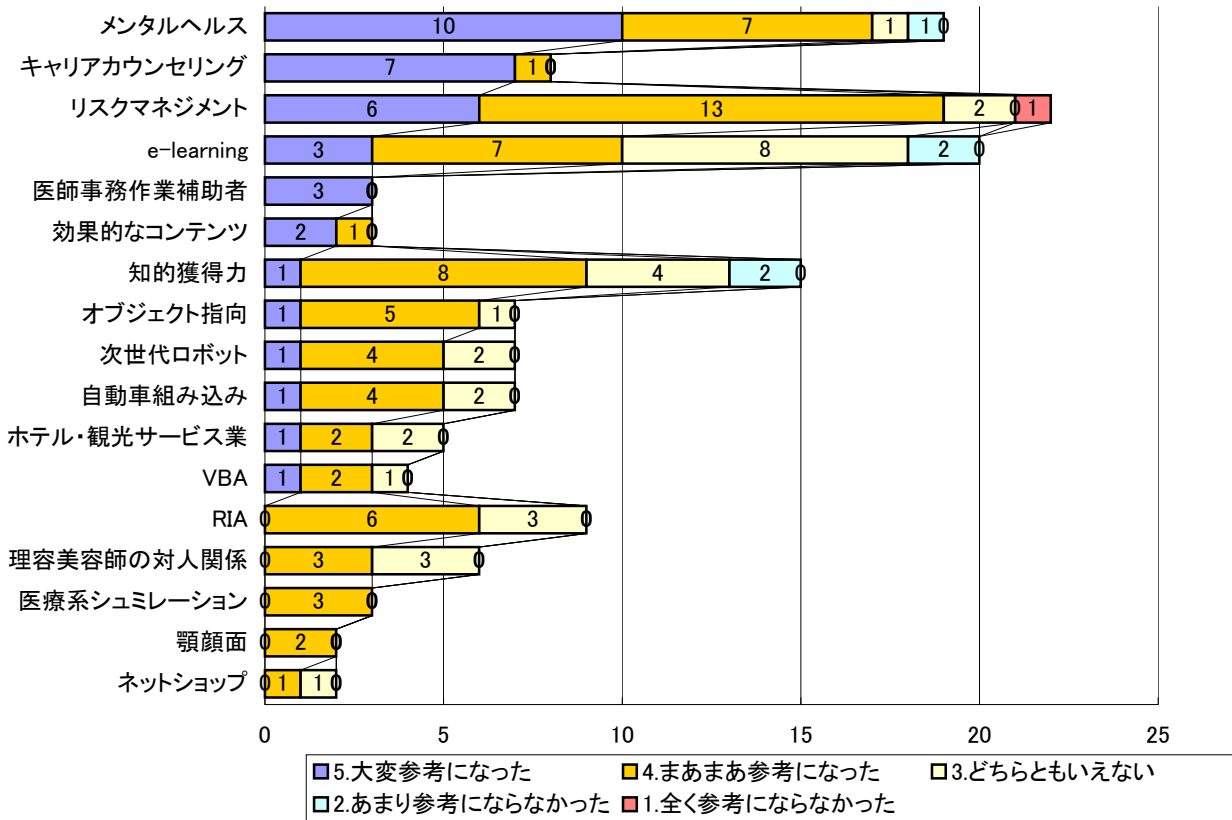
評価の理由:

- ・大変おもしろかった。
- ・おもしろかった。もっと詳しく伺いたかった。
- ・現状がわかり参考になった。
- ・良くわかった。
- ・業界の裏話がいろいろと聞けた。
- ・良く理解できた。
- ・最新の情報が得られてとても参考になった。
- ・現状であろうが、見えないところが多く、わかりづらかった。
- ・ネットを使った広告展開を考えていきたい。
- ・現状について知ることができた。
- ・Webおよび業界の現状を知ることができた。なかなかメディアには出てこない話なので、参考になった。必要とされる人材像についても具体的で参考になった。
- ・業界の説明があり、大変わかりやすかった。
- ・インターネットの現状の動きと、今後への方向性など参考になった。
- ・話が大変わかりやすかった。
- ・インターネット戦略を今後参考にしたい。

問2. 文部科学省委託事業成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表
 (「大変参考になった」をキーに並べ替え)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(「大変参考になった」をキーに並べ替え)



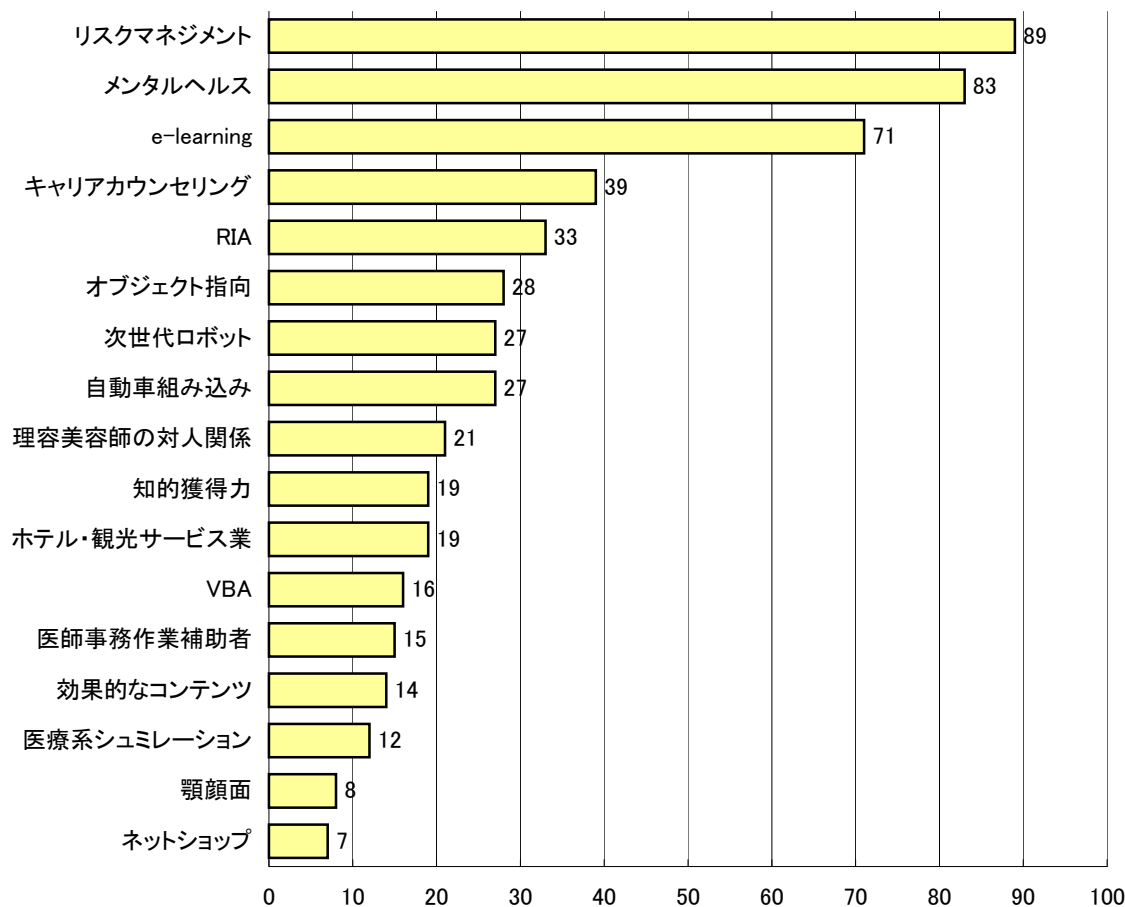
(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

委託事業名	5. 大変参考になった	4. まあまあ参考になった	3. どちらともいえない	2. あまり参考にならなかった	1. 全く参考にならなかった
メンタルヘルス	10	7	1	1	0
キャリアカウンセリング	7	1	0	0	0
リスクマネジメント	6	13	2	0	1
e-learning	3	7	8	2	0
医師事務作業補助者	3	0	0	0	0
効果的なコンテンツ	2	1	0	0	0
知的獲得力	1	8	4	2	0
オブジェクト指向	1	5	1	0	0
次世代ロボット	1	4	2	0	0
自動車組み込み	1	4	2	0	0
ホテル・観光サービス業	1	2	2	0	0
VBA	1	2	1	0	0
RIA	0	6	3	0	0
理容美容師の対人関係	0	3	3	0	0
医療系シュミレーション	0	3	0	0	0
顎顔面	0	2	0	0	0
ネットショップ	0	1	1	0	0

問2. 文部科学省委託事業成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表
(順位をポイント化した総合順位)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(順位をポイント化した総合順位)



(順位をポイント化した総合順位)

※ポイントとは→5.大変参考になった=5 4.まあまあ参考になった=4 3.どちらともいえない=3
2.あまり参考にならなかった=2 1.全く参考にならなかった=1

委託事業名	5.大変参考になった (5p)	4.まあまあ参考になった (4p)	3.どちらともいえない (3p)	2.あまり参考にならなかった (2p)	1.全く参考にならなかった (1p)	総合ポイント	総合順位
リスクマネジメント	30	52	6	0	1	89	1
メンタルヘルス	50	28	3	2	0	83	2
e-learning	15	28	24	4	0	71	3
キャリアカウンセリング	35	4	0	0	0	39	4
RIA	0	24	9	0	0	33	5
オブジェクト指向	5	20	3	0	0	28	6
次世代ロボット	5	16	6	0	0	27	7
自動車組み込み	5	16	6	0	0	27	7
理容美容師の対人関係	0	12	9	0	0	21	9
知的獲得力	5	8	4	2	0	19	10
ホテル・観光サービス業	5	8	6	0	0	19	10
VBA	5	8	3	0	0	16	12
医師事務作業補助者	15	0	0	0	0	15	13
効果的なコンテンツ	10	4	0	0	0	14	14
医療系シュミレーション	0	12	0	0	0	12	15
顎顔面	0	8	0	0	0	8	16
ネットショップ	0	4	3	0	0	7	17

②参考になった、印象が強かった理由:

■「メンタルヘルストレーニング」の導入と実践

- ・成果物を頂ければぜひ導入してみたい。
- ・授業の中に簡単に取り入れることができる。
- ・現場でいつも当たる学生のモチベーション維持、喚起に一石。
- ・学級崩壊とまでは言えないが、クラスの中で人間関係に悩んでいる学生が増加し、授業に集中できない学生も増えてい
- ・「メンタルヘルストレーニング」にとっても興味を持った。実際に二つのトレーニングを体験して効果が期待できた。
- ・3分間でできる内容を提示して頂き、早速来年度導入してみようと思う。人間のどろどろした場面が、クリアに改善できることを望む。
- ・増加傾向にあるメンタル面で弱い学生の対処法。
- ・実践的だった。現場の状況に即して、リアルなもので、しかも役立つと思う。

■知識獲得力の体系化と強化プログラムの開発・実証

- ・良く研究されていて驚いた。
- ・基礎力(読み、書き)ではどこも困っている。

■「オブジェクト指向」教材の開発(4年制カリキュラムの開発)

- ・オブジェクト指向プログラミングの中でオブジェクト指向モデルを考える従来のカリキュラムから脱皮しようとしている点。
- ・ソフトウェア開発プロセス全体の視点(信頼性を高める開発方法)持たせようとする点。
- ・プログラミングの前にシステムの分析と設計開発があることを重視している点。
- ・基本情報にとらわれず、就職自体の高度化を目指し、各教科、コマシラバスがカリキュラムとして有機的に結びついた素晴らしいものと感じた。
- ・新しい認識を得られた。

■次世代ロボット技術者育成4年制課程の教育プログラム開発

- ・3種類のロボットどれにでも使える点、。
- ・授業にそのまま取り入れることができる。CD-Rなど教材も完備している。

■自動車組込み技術者育成による早期離職した若者の再チャレンジ支援

- ・ラジコンを利用しており興味を持てた。
- ・授業にそのまま取り入れることができる。CD-Rなど教材も完備している。

■理容美容師の対人関係力育成講座とキャリア指導による再チャレンジ支援

- ・当校でも実施したい。

■ホテル・観光サービス業に携わる若者の職業観育成教育プログラム開発

- ・当科とは違う、ホテル観光であったが、職業教育の入り口がわかり易く参考になった。

■若者にやりがいと夢を与えるネットショップ店長の教育プログラムの開発

- ・今後に役立てることができそうだ。

■「医師事務作業補助者」育成教育プログラムの開発およびその実践

- ・新しい商業分野の職業として注目されているが、テキストもカリキュラムもないのが現状である。その中で教育プログラムの開発をされとても参考になった。
- ・医療の現場の状況や、問題点など良くわかった。医者が文書作成で時間を取られるとは全く知らなかった。効率化のためのITの可能性を知れて良かった。

■一方上をゆくICTスキルアップ講座「VBAスキル習得講座」の実施

- ・この講座への参加者およびアンケートの数が少なかったので、声として参考にならなかったが、Word、Excel止まりの教育がほとんどでスキルアップの教育者として参考になった。
- ・起きてくる問題に対する対策が大変参考になった。

■職業教育におけるキャリアカウンセリングプログラムの開発

- ・すぐに現場に落とし込んで使用可能なプログラムである。
- ・職業教育が当科ではできていないので、シラバスが参考になった。
- ・21年度に実施したい。
- ・即、活用できる教材である。
- ・本校のキャリア教育に活用できそうだった。

■効果的なコンテンツ作成に重要なコミュニティ形成とコーディネータ育成

- ・e-learningの利用方法について参考になった。

■顎顔面補綴技術のための教育プログラムの開発

- ・シミュレーションの教育的効果の利用の仕方が参考になった。

■リスクマネジメント教育のための教員研修プログラムと教材開発・検証

- ・香川大学の先生の事例研究が大変良かった。リスクコミュニケーションというものから新製品を開発し、しかもリリーター率も高いという点が参考になった。
- ・学校自体にとっても、学生への授業内容としても重要なテーマだと思う。しかし、学校の先生が教えるためにはもっと支援が必要だと思う。
- ・現在、学園全体のリスクマネジメントに取り組んでおり、参考としたい。
- ・リスク管理についての人材育成の必要性を痛感した。
- ・学校全体で取り組みたいので、もっと詳しく聞きたい。
- ・学校運営においてもリスクマネジメントを真剣に考えていかなければならないことを改めて認識した。
- ・CSRが企業を中心である。

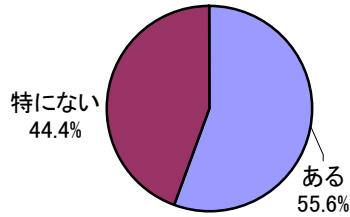
■学生の主体性・積極性を強化、自ら学ぶ力を醸成するライブ型e-learningの実践

- ・e-learningを実際にどのように運用したのかをもっと聞きたかった。機材セッティングの話はすごく良かった。
- ・学校授業の中でのライブ型eラーニングの効果についての評価が実施されており参考になった。
- ・導入したい戦略の一つ。
- ・ヒントが沢山あった。
- ・キャリア教育、eラーニングの効果がよく説明されている。
- ・残念なほうで印象的だった。テーマが2つになってしまったの発表だった。当方としては、ライブ型e-learningという手法の評価、実施してどうだったかが知りたかった。19年度から参加していればそのようには感じなかったかも知れない。

問3. 今後、文部科学省委託事業等で取り組みたい事業やテーマ

	区分	回答数	%
1	ある	10	55.6%
2	特にない	8	44.4%
	計	18	100.0%

今後、文部科学省委託事業などで取り組みたい事業やテーマ



具体的な内容:

- ・外国人留学生の教育。
- ・現状では未定である。
- ・キャリア教育
- ・画像処理、認識技術
- ・ネットショップの実践的な運営を行う人材育成。
- ・教員管理を含めた各個人への最適指導、ポストへの心理学的アプローチについて。
- ・教育重点プラン(産額連携)の研究を行っていきたい。
- ・調理技術の動画アーカイブ化とこれによるe-learning。

■ 本会からの情報提供や、連携校の紹介など具体的な希望

- ・重点プランの参画など、今後検討していきたいので、その際にはお声掛けをお願いしたい。

問4. 課題となっている事項や悩み、希望する研修テーマなど

- ・もっとIT業界団体などと交流をさせてはいいかと思う。今回のフォーラムのテーマは専門学校だけではなくもっと企業・業界団体や社会と一緒に考え、解決を図るべきだと思う。どのようなお役に立てるか、考えてみたいと思う。
- ・2008年度に開校した新規校。はたけ違いと思ったが、業界の動向や展望を知りたいと思い参加した。どの発表も非常に参考になったが、特に芦田先生の話は、業界の問題点、さらには我が校の問題点(カリキュラムや人材の不備)に関して、深く考えさせられる内容でもっと聞きたかった。学校に持ち帰り、今後の改善の指標とさせていただきます。
- ・少ない人員での広報(募集)活動。効果的な広報ツールは(高校向け情報提供は何が効果があるか)
- ・20歳で社会に出て通用する逞しい(打たれ強い)学生をどう育成するか? そのためのカリキュラムをどう編成するか?
- ・学内スタッフ育成プログラム(社員研修)
- ・全体的に資料の報告が多いと思う。読めばわかる事項をプレゼン中に説明する時間を減らし、もっと具体的な運用面の話(資料にない話)を聞きたかった。
- ・芦田先生に関連する勉強会や研修あったら今後も案内をいただきたい。
- ・教育のレベルアップ
- ・大変勉強になった。学校に持ち帰って使わせて頂く。
- ・学生数の減少(特に情報・電子機械分野)。成功している学校の話が聞きたい(企業秘密で無理と思うが)
- ・教員の質と量の確保・学生募集
- ・変化に適応する組織の在り方
- ・特徴ある学校、安定している学校の在り方。
- ・職員、教員研修の在り方。
- ・学生募集(効果的な対応、対処、今後の対応)
- ・就職対応
- ・入学後発覚する、普通高校を卒業しているのに極端に学力の低い学生(自分の住所が書けない、足し算、引き算ができないなど)の就労支援の方法。特に精神的な病や、病歴を持つ学生(障害者手帳が発行されていないグレーゾーンの病?を持つ学生)の就労(就業)支援について。
- ・FD活動